稲作管理特報　～土づくり臨時号～

令和８年10月５日
黒東地域農業技術者協議会

１　土づくり　～ケイ酸や加里の不足を補いましょう！～

JA みな穂管内は砂壌土を中心に稲作に特に重要なケイ酸や加里が不足しています。高品質米づくりに向け、**土壌改良資材は毎年必ず施用し（表1）、有機質資材も積極的に施用しましょう（表2）。**

また、ごま葉枯病（写真）が多発したほ場では、鉄分を含む資材を施用しましょう。

表１　土壌改良資材（①、②、③より選択）

No.	資材名	施用量（10a あたり）
①	粒状珪酸石灰	160～200 kg
②	シリカパンチＦ（含鉄資材）	120 kg
③	アサヒニューテツ（含鉄資材）	160～200 kg

表２　有機質資材（秋施用の場合）

発酵ケイフン	150 kg
グリーンウェーブ2	60 kg
牛ふん堆肥	2t

秋散布で稲わら等の腐熟が促進！

写真　ごま葉枯病

◎ケイ酸や加里の効果

ケイ酸には、受光体勢を良好にし**光合成能力を向上させる効果**や**割籾の発生を低減する効果**があります。特に登熟期が高温となった場合、整粒歩合の向上につながります。

さらに、**加里が不足すると１穂籾数が少なくなり減収の要因となります。**

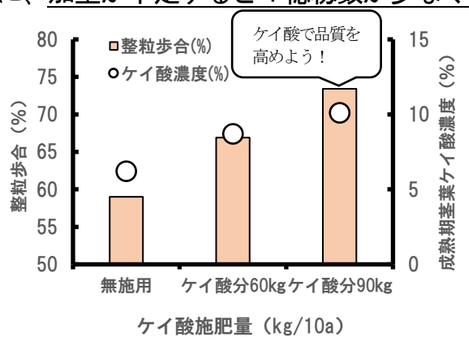


図１　ケイ酸施用試験でのケイ酸濃度及び収量構成要素（農研）

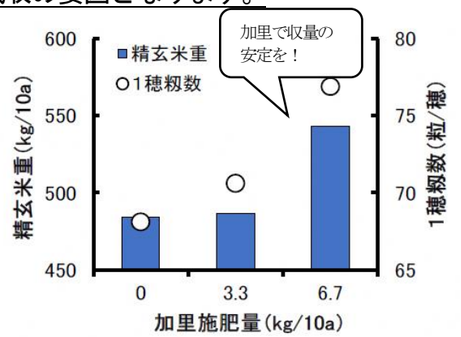


図２　加里施肥量と収量等との関係

２　秋耕しの実施　～秋耕しで稲わらの腐熟とヒコバエ対策～

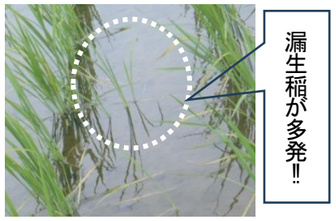
- 近年、秋の気温が高く、ヒコバエが稔実しています。ヒコバエはカメムシやイノシシ、サルの秋のエサとなり、越冬数の増加や集落への誘因に繋がります。稲わらや稲株の腐熟を促すため、**気温が高い 10 月中旬までに秋耕しを行いましょう。**

- 秋耕し後は、腐熟が進むよう**排水溝の設置と排水口への連結を行い、ほ場を乾かし**ましょう。秋のうちに腐熟が進むと、**翌年の田植後のワキ（メタンガスの発生）を抑えることができます。**

写真　ヒコバエの籾を食べるイノシシ（左）とサル（右）

３　収穫後の漏生稲と雑草対策　～秋耕し前に除草剤を散布しましょう～

- 収穫後の除草剤散布により雑草種子や塊茎等の発生源を減少させることができるため、積極的に散布しましょう。
- ヒコバエが稔実したほ場では、次年度は基本同一品種での作付けとし、**前年度と異なる品種を作付けする際は、大豆跡を基本とし、やむを得ず水稲を作付けする際は、必ず除草剤散布と秋耕しを行いましょう。**



薬　剤　名	作物名	散布量（10a）	備　考
プリグロックスL 使用回数：1回 〔ヒコバエ出穂後〕	移植水稲	800～1000mL 〔希釈水量100～150L〕	・1年生雑草（ヒエ、クサネム等）種子の発芽抑制等により翌年の発生を減らす。 ・土中の種子には効かないので、**秋耕前に散布する**。 ・ワラの下にある雑草種子まで薬液が確実にかかるよう散布量を確保する。また、降雨後の散布の方が、ワラ下の雑草種子やこぼれ籾に薬液が付着しやすいことから安定した効果を発揮する。 ・**こぼれ籾など次作の水稲の異品種混入を減らす（漏生稲対策）**。
ラウンドアップマックスロード 使用回数：1回 〔ヒコバエ出穂前〕	水田作物（水田刈跡）	１年生雑草 200～500mL 多年生雑草 500～1000 mL 〔希釈水量50～100L〕	・塊茎（球根）を形成する雑草（クログワイ等）にも茎葉から浸透移行し、翌年の発生密度を減らす。 ・稲刈後、気温の高い時期の散布が効果的。 ・雑草全体に十分薬剤が付着するように散布量を設定する。 ・水稲収穫後、**地上部分の雑草が再生した時に散布**した方が効果が高い。
粒状石灰窒素 使用回数：1回	水田作物（水田刈跡）	50 kg	・発芽促進により秋のうちにヒエを発生させ、翌年の発生密度を減らす。 ・すき込むことにより稲わらの腐熟も促進し、翌年のワキを抑制する。（散布後2～3週間後にすき込む） ・稲刈後、気温の高い時期（10 月上旬まで）の散布が効果的。**翌年は水稲の基肥を減肥**する。

注）収穫後ほ場に散布した農薬は次期作の成分使用回数にカウントされます。

- 薬剤散布後約 10 日を目安に耕起をしましょう。
- 除草剤を散布する場合は風向きなどに留意し、付近の作物等にかからないようにしましょう。

★JA みな穂では営農情報を配信しています。
・営農メール：水稲栽培情報、気象・災害情報
・LINE：稲作管理特報などの各種特報
※右の二次元コードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

営農メール　LINE

JA みな穂営農センター（中央支店）　TEL 74-2440　西部支店経済課　TEL 72-1162　南部支店経済課　TEL 78-1167
あさひ支店経済課　TEL 83-3212　新川農林振興センター 農業普及課　TEL 52-0094